

令和3年度

徳島県立川島中学校

学校評価についての総括評価表

令和3年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(1)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標	活動計画	評価指標による達成度	総合評価		
(1) 中高一貫教育の推進	<p>① 中高連携の促進に努め、生徒の個性や能力を伸張するとともに、異年齢集団における社会性の育成を進める。</p> <p>② 6年間の計画的・継続的な教育の研究を進め、中高の一貫性を促進する。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を定期的に開催し、生徒の現状に応じた教育活動を検討する。</p> <p>② 学年をまたがったの活動を取り入れ、6年間を見通した特色ある教育を行っていると思うと回答する割合が85%以上を目指す。</p> <p>③ 6年間でしっかりとした学力を身につけることができると回答する割合が85%以上を目指す。</p> <p>④ 中高合同で実施された行事は高校生との交流を深めるのに役立っていると回答する割合が80%以上を目指す。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年5回、また中高合同の教科会を3回実施した。</p> <p>② 今年度も入学式は中高合同で実施した。昨年度中止となった文化祭と中高別々に行った体育祭は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い中高合同で実施した。アンケート結果から、生徒・保護者・教職員の満足度は96%・92%・100%と目標を達成した。</p> <p>③ 6年間を見通した特色ある教育を行っているかどうかは、アンケート結果から、生徒は92%、保護者が86%と昨年に続き目標を達成している。教職員の満足度は84%と目標を達成できなかった。</p> <p>④ 昨年度はこのアンケート項目はなかったため、昨年度との比較はできないが、今年度のアンケート結果から、生徒・保護者・教職員の満足度は83%・90%・100%と目標を達成した。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>今年度の中高一貫教育の推進に関するすべてのアンケートの項目で生徒・保護者の回答は8割以上が肯定的である。様々な行事をZoomなどで行う中、今年度は感染対策をして中高合同で文化祭と体育祭ができたことは、高校生との交流を実感できる機会になったと思われる。しかし、児童数の減少に伴い志願者数は減少傾向にある。志願者の学力については、開校当初に比べ学力差が大きくなっている。電子黒板の利用や1人1台タブレットを活用して、現在の生徒の学力や人数にあわせた学習形態など工夫が必要である。</p>	<p>○ 目標値を超えた達成度を評価する。この数値結果に満足することなく、中高一貫教育校でしか体感できない、生徒が入学して良かったと思える場面を適宜設定して欲しい。学校行事等での場面はもとより、日々の学校生活においても実感できる場面を工夫してほしい。この地道な努力が魅力ある学校づくりにつながると考える</p> <p>○ 現状維持で</p> <p>○ ほとんどの評価基準を達成できていることはすばらしい。次年度の課題について、さらに「教師間で共通理解を図りながら取り組みを進めてもらいたい。</p> <p>○ 授業風景や行事の様子など今年度はたくさんの生徒の活動の様子をホームページで発信できたが、さらに本校のめざす学校像を、具体化・明確化し、ホームページ等で発信して生徒・保護者に伝えていくことが必要である</p>		
		<p>① 併設高校と連携し、毎学期に教科会を行ったり、研究授業を行ったりするなど生徒の現状に応じた6年間の学習計画づくりをする。</p> <p>② 儀式的行事や体育祭・文化祭だけでなく、必要に応じて行事等を実施し、生徒の積極的な参加を促す。</p>	<p>① 中高一貫教育推進委員会を年5回実施し、一貫教育における懸案を話し合った。本年度も学期に一度教科会を行い、各担当学年やクラスの現状と課題について話し合いをもった。また、授業見学会を行い、授業力向上を図った。</p> <p>② 入学式、文化祭、体育祭は感染対策を行い、中高合同で実施した。始業式・終業式(学期ごと)、全校集会(毎月)はZoomを使って実施した。</p>				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度		総合評価	
<p>(2) 確かな学力の充実と指導力の向上</p>	<p>① 個別面談の充実や、朝の学習、家庭学習など自主学習の促進に努める。</p> <p>② 学力向上を図る研修の充実や、授業の創意工夫に努める。</p> <p>③ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習・指導方法の研究を推進する。</p>	<p>① 家庭学習時間（塾なども含む）の平均が各クラス2時間以上をめざす。</p> <p>② 「1年間、計画を立てて振り返りながら学習に取り組むことができた」と答える生徒の割合が60%以上をめざす。</p> <p>③ 各種検定（漢検・英検・数検など）の受検率を昨年度より向上させる。</p> <p>④ 「単元ごとにICTを活用した、主体的・対話的で深い学びのある授業を1回以上実践できた」と答える教員の割合が80%以上をめざす。</p>	<p>① 定期考査ごとの学習状況調査では、毎回の学年も平均2時間以上学習している。</p> <p>② 「計画を立てて振り返りながら学習に取り組むことができた」と回答した生徒は69%であった。</p> <p>③ 昨年度と比べて受検率は漢検が53%から38%に下がり、英検が64%から65%、数検が20%から24%となり、少し向上した。また、今年度も数学思考力検定を実施することができた。</p> <p>④ 全教員が「小单元ごとに深い学びを促す場面を1回以上設定できた」と回答していた。また、「授業に積極的に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が89%、「本校の授業は、わかりやすく工夫されている」と回答した生徒の割合が91%となっている。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>本年度は、「大学連携強化！学校力向上拠点校事業」の拠点校として協力校の川島高校と協力しながら、教員の授業力向上に努めた。学力推移調査の結果だけでなく、全国学力調査やステップアップテストの結果を基に、徳島県教育委員会や鳴門教育大学から指導を頂き、生徒の主体性を引き出す授業改善に全教職員が取り組んだ。その結果、生徒自ら意欲的に学ぶ姿勢が身についてきている。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>本年度は、「大学連携強化！学校力向上拠点校事業」の拠点校として協力校の川島高校と協力しながら、教員の授業力向上に努めた。学力推移調査の結果だけでなく、全国学力調査やステップアップテストの結果を基に、徳島県教育委員会や鳴門教育大学から指導を頂き、生徒の主体性を引き出す授業改善に全教職員が取り組んだ。その結果、生徒自ら意欲的に学ぶ姿勢が身についてきている。</p>	<p>○ 確かな学力を育てるためには、教員が確かなカリキュラム・マネジメントのもと、切磋琢磨しながら自己の指導力の向上に向けて貪欲に取り組むことが肝要である。中高一貫教育校として、6年間を見通したカリキュラム・マネジメントができることと、中高の教員が身近で連携して取り組めることは何よりの強みであると考えます。</p> <p>○ コロナ禍でも、タブレット使用等により学生の勉強への意欲が損なわれるようなことがなかった。</p> <p>○ 至誠ノートの活用が、日常生活の中での学習習慣の定着につながっていけば良いと思われる。</p>	<p>○ 各教室の電子黒板や生徒1人1台タブレットの活用が始まり、生徒がICTを活用した学習に慣れつつある。本校だけでなく、県内外の学校での活用事例を参考に、教員研修を実施し、さらなる授業改善につなげたい。</p> <p>○ 検定の受検率をあまり向上させることができなかった。一方で、英検や漢検では準2級や2級に挑戦する生徒も出てきている。検定を受けて、基礎学力の向上を目指すよう生徒に促していきたい。</p> <p>○ 定期考査期間中だけでなく、日々の至誠ノートの活用にも注力することが課題である。至誠ノートの内容を踏まえて、生徒の基本的な生活習慣と学習習慣の見直しができるよう指導していきたい。</p>
		<p>① 至誠ノートを毎日提出させ、学習の計画を立て、振り返る習慣を身につけさせる。</p> <p>② 中高一貫校用の模試を活用して、大学入試まで見据えた学習指導を行う。</p> <p>③ 各学年で効果的な「質問タイム」や「補充学習」を実施し、個々の生徒の学力を伸ばす。</p> <p>④ 「授業力向上のための授業見学」において、公開授業に積極的に取り組む。</p>	<p>① 定期考査の時間割発表の日に学習の計画を立てる時間を設け、考査最終日には毎回学習状況調査を実施した。</p> <p>② 昨年度から実施している中高一貫校用の模試(学力推移調査)を本年度も継続的に実施し、1年前や上の学年との成績比較ができるようになり、授業改善につなげられた。</p> <p>③ 「定期テスト前の『質問タイム』や、終了後の『補充学習』は、学力向上に役立っている」と回答した生徒は80%であった。</p> <p>④ 中高合同で「授業力向上のための授業見学」を年間2回行った。第1回は高校の授業を見学し、第2回は中学校が授業を公開して、研究協議を行った。</p>				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度			
<p>(3) 生徒の能力・適性に応じた進路の実現</p>	<p>①進路指導の改善・充実を図り、進路達成意欲を高める。 ②三者面談・年次PTAなどにより保護者との連携強化に努める。</p>	<p>①「生活オリエンテーション」(1年生)、「先輩から学ぶ」(2年生)、「スペシャルアプローチ」(3年生)などを通して、中学生が中学校の先輩や高校生と語り合うことは学校生活に役に立っていると思う生徒・保護者の割合を85%以上をめざす。 ②フューチャーにおいて、将来の進路につながるキャリア教育を実施し、それぞれの発達段階に応じた体験活動が進路選択に役立つとの回答が85%を超えるようにする。 ③「進学説明会」、「高校体験入学」(3年生)の実施が進路を見据えた学校生活に役立つとの回答が80%以上にする。</p>	<p>①生徒の81%が「生活オリエンテーション」、「先輩から学ぶ」、「スペシャルアプローチ」が学校生活に役立っていると回答した。また、保護者の88%が、子どもちの学校生活に役立っていると回答した。 ②生徒の86%、保護者の92%がフューチャーでの様々な学習や体験活動が進路選択に役立つと回答した。 ③3年生の95%、3年生の保護者の88%が、高校からの「進学説明会」が進路を見据えた学校生活に役立つと回答した。</p>	<p>(評定) B</p> <p>----- (所見) どの項目でも「思う」「ある程度思う」という回答が生徒・保護者ともに8割以上となっており、本校の進路指導におおむね理解をいただいているものと思われる。評価指数②③については、生徒・保護者ともに目標値に到達しているが、評価指数①については保護者のみ目標値を上回っている。どの評価指数でも保護者の目標値を上回ったのは、ホームページで活動の様子を知らせることができたと考えられる。コロナ禍ではあったが、学校行事はZoomの利用や少人数の授業形態で行うなどの工夫をしながら、できるだけ実施するよう努力した。</p>	<p>○6年間を見通した進路指導計画を立て、各学年で調整しながら取り組めることは、中高一貫教育校のアドバンテージである。生徒が身近にいる先輩の姿を見て、数年先の自分の姿と重ね合わせることは実に意義深い。先輩と語り合い、今の自分を省みられる機会の充実に努めて欲しい。 ○現状維持 ○新型コロナウイルス感染拡大の中、中止された行事はあるものの、様々な行事が行われており、生徒にとっては貴重な体験ができていと感じる。今後とも多様な体験や出会いの機会を提供して欲しいと思う。</p>	<p>○進路指導体制の確立をはかり、1学年から計画的に進路指導を行うとともに、高校との効果的な連携をはかる。 ○総合的な学習の時間や体験活動については、これまで同様、6年間を見通しながら、生徒の実態に沿った内容で柔軟にプログラムを組むことが重要である。 ○生徒の活動の様子をホームページなどで知らせ、広く学校の進路指導について知ってもらう。 ○「先輩から学ぶ」や「特設スペシャルアプローチ」など高校生と語り合う機会は、高校からの説明をより具体的に示すものとして有効であるので、今後も継続して実施したい。また、スペシャルアプローチでは、生徒が中学から高校へのつながりを感じ、スムーズに高校の学習に移行できるよう、中高が連携し、工夫した教育活動を展開していく。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>①進路指導の充実を図り、生徒の能力や適性を高めるため、行事を通しての体験学習や、質問タイム、補充学習、課題演習(全学年)、スペシャルアプローチ(3学年対象)等の内容の充実を図る。 ②体験的な活動を計画的に実施するとともに、中高の連携や外部との連携を積極的に取り入れることで社会性を育て、問題を解決する能力を養い、進路選択を支援する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①各学年に応じた進路指導を行った。質問タイム、補充学習を定期テストに合わせて年5回実施した。課題演習では、英語検定や漢字検定、数学検定の学習に取り組んだ。また、夏季休業日(6日)・冬季休業日(3日)の補習授業を実施した。それに加え、3年生にはスペシャルアプローチを各教科2時間程度、5年生が教えてくれる特設スペシャルアプローチを2時間、校長先生によるスペシャルアプローチも実施した。 ②生活オリエンテーション 全学年 4月 阿波木偶「箱回し」の鑑賞 2年生 10月 先輩から学ぶ 2・5年生 10月 職業ガイダンス 2年生 10月 職場体験出前授業 2年生 11月 (職場体験学習より変更) 職場体験出前授業発表会 1・2年生 12月 夢ナビライブへの参加(希望者) 3年生 中止 川島高校体験入学 3年生 中止 スペシャルアプローチ 3年生 10月～1月 特設スペシャルアプローチ 3・5年生 11月</p>				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価 価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度		総合評価	
<p>(4) 基本的な生活習慣の確立を図る生徒指導の徹底</p>	<p>① 生徒一人一人の自覚を促し、基本的な生活習慣を身につけさせる。</p> <p>② あらゆる教育活動を通して、きめ細やかな生徒指導を行い、いじめの防止等の取組に努めるとともに教育相談活動の充実を図る。</p>	<p>① 校則や交通ルールの遵守をめざし、90%以上が交通ルールを守れていると回答できるようにする。また登下校時の交通事故ゼロに努める。</p> <p>② あいさつをよくしているとの回答を、90%以上とする。</p> <p>③ 携帯電話を正しく使っているとの回答を90%以上とする。</p>	<p>① 校則、交通ルールに関して生徒92%、保護者94%が守れていると回答している。また、登下校時の交通事故は2件であった。</p> <p>② 生徒64%、保護者88%があいさつをよくしていると回答した。</p> <p>③ 携帯電話に関しては、生徒86%、保護者76%が正しく使用していると回答している。使用に関して生徒、保護者と、しっかり連携して管理する必要がある。</p>	<p>(評定) B</p> <hr/> <p>(所見) 自転車運転中の自損事故や交通事故が毎年発生している。交通事故は幸いにも重大事には至っていないが交通ルールやヘルメット着用の指導を徹底したい。携帯電話やスマートフォンの所持に教員は危機感を持っている。メールやラインを遊びに利用し、様々な問題が発生している。今年度は、スクールロイヤーを活用した授業を行った。携帯電話やスマートフォンの使用方法について法的側面から専門的な話を聴き、知識を深めることができた。これら問題解決には学校の指導だけでなく、保護者の協力が不可欠である。 中学生集会や学年集会を利用して、自己肯定感や生命の大切さについて指導した。 また、おもしろ半分に勝手に写真や動画を掲載することは許される行為ではなく、人権侵害やいじめ等、重大な事件につながる恐れがあることを指導した。さらに規範意識についても指導していきたい。</p>	<p>○ 基本的な生活習慣は、「食事」「睡眠」「清潔」「身だしなみ」「人に迷惑をかける」など、社会の中で生活するために大事な生きる力である。評価指標が、「交通ルールの遵守」「挨拶」「携帯電話の使い方」だけでは偏りがある。生徒に規則正しい生活の必要性を自覚させ、身につけさせるための目標の再考を願いたい。</p> <p>○ 登下校だけでなく、休日でもヘルメット着用や家での携帯電話の使用に関して、学校と家庭の協力が不可欠ではあるが、思春期のため、少し難しいところもあると思われる。次年度課題での外部指導をお願いしたい。</p> <p>○ 校則・ルールが守られている状況は素晴らしいと思う。携帯電話の使用ルールやマナーについては、指導が困難な面も多いと思うが、保護者と連携して地道に働きかけていって欲しい。</p>	<p>○ 全項目について指導の徹底を図るが特にあいさつの励行については、登下校時に立哨や呼びかけを行い、100%の実施につなげたい。</p> <p>○ 家庭と密接に連携し、安全で安心して生活できる学校づくりを推進していく必要がある。</p> <p>○ 問題行動には携帯電話やスマートフォンを使用したメールのやりとりが関係している場合が多い。そこで、外部機関を利用した携帯電話安全教室のより一層の充実を図り、トラブル防止の徹底をしたい。また、定期的にアンケート等を実施して生徒の生活状況を把握しいじめ等の問題行動を未然に防ぎたい。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>① 社会や学校のルールやマナーを守り、お互いが気持ちよく安全な生活を送れるようにする。また、徒歩通学生徒、自転車通学生徒、公共交通機関を使用する通学生徒、保護者送迎等それぞれの通学状況に応じた指導を行い、登下校時の事故やけがの防止に努める。</p> <p>② 生徒相互、教職員、来客者に対するあいさつを徹底させる。特に全校集会等で生徒会本部役員とタイアップしてあいさつ運動を推進する。</p> <p>③ 外部講師による講話や講習会を毎学期に実施し、トラブル防止を推進する。</p> <p>④ いじめの防止や、早期発見に努め、問題の背景や環境要因も考慮し適切な解決や支援を実行する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 入学説明会等で、生徒や保護者へ校則の周知徹底を図った。さらに同日、県警サポートセンターによる携帯電話使用の講演を実施した。 毎月の指導週間の実施 JR乗車指導の実施 全校集会後の中学生集会の実施</p> <p>② 生徒会によるあいさつ運動の実施 毎月の指導週間の実施 外部講師による安全教室の実施</p> <p>③ 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教室の実施 非行防止作文・ポスター作成 スクールカウンセラーの配置 スクールロイヤー活用事業</p> <p>④ アンケートや「至誠ノート」を始め普段の生活状況等を担任が注意深く観察し、いじめの早期発見に努めた。また、校則違反や問題行動等が見受けられた場合、速やかに保護者に連絡を取り、面談の場を設けた。交通事故防止等を集会等で指導した。</p>				

令和3年度 徳島県立川島中学校 学校評価についての総括評価表(5)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度	総合評価		
(5) 人権尊重の精神の涵養を図る人権教育の推進	①人権教育指導計画の推進と、“あわ”人権学習ハンドブックの活用により人権問題を解決できる生徒の育成に努める。 ②人権尊重の意識を高めるため、創意溢れる具体的な取組の展開に努める。	①「人権学習に積極的に取り組んでいる。」と思う生徒の割合、80%以上をめざす。 ②「人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとしている。」と思う生徒の割合、80%以上をめざす。 ③「人権を大切にしている教育活動が行われている。」と思う保護者の割合、80%以上をめざす。	①生徒86%が、「人権学習に積極的に取り組んでいる。」と回答し、評価指標を十分達成している。 ②生徒84%が、「人権の大切さを学び日常生活に活かそうとしている。」と回答し、評価指標を十分達成している。 ③保護者87%が、「本校では人権を尊重する考え方や態度を育てる教育が行われている。」と回答し、評価指標を達成している。	評価指数による達成度	(評定) B	○各評価指標の目標値が達成されていることを評価したい。人権学習を通して、人権の大切さを学び、それを日常生活に活かそうとする人格を育てることは、人権教育の根本であり、人権尊重の社会の実現のためには不断の努力が必要である。中高が連携した人権教育をさらに推進して欲しい。 ○現状維持 ○生徒の人権尊重の意識は高いと感じる。現在の取り組みを継続して欲しい。学校での取り組みが、生徒対生徒、生徒対家族、生徒対教師の意見交換の機会を増やすことにつながればと思う。	○今回の学校評価アンケートは目標としていた指標を達成できていた。今後さらに、学習したことと態度化・行動化につなげ、意識をより高め、高い人権意識を維持する工夫をしていく必要がある。今年度なかなか実施できなかった教職員の研修を充実させるとともに、今後とも外部講師による体験的な学習も積極的に取り入れていきたい。また、日頃の姿勢から生徒や教職員の人権感覚の醸成をはかっていきたい。 ○人権の日や人権新聞など、中高の連携を図りながら、共に学んでいく機会を継続していきたい。
		活動計画 ①生徒の実態に即した人権学習主題を設定し、個別的な視点と普遍的な視点を結び合わせた学習を組み立てていく。また、“あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」の活用に努める。 ②生徒一人一人の個性を生かし、大切にしている学級づくりのため、学校生活に関するアンケートを行う。授業や指導の中で、いじめは、人権にかかわる重大な問題であり、絶対に許されない行為であることを徹底する。また、周囲と良好な人間関係を構築し、コミュニケーションをとることができるようにするために、体験的参加型学習を取り入れる。 ③人権・放送委員会が積極的に活動する場を作り、生徒が自分たちの意見や考えを表現できる機会を設ける。	活動計画の実施状況 ①各教科における人権教育年間計画を作成し、授業や学校生活の中で人権教育の推進を図った。 ・“あわ”人権学習ハンドブックや「わたしの願い」を活用し、普遍的な視点と個別的な視点を結び合わせながら、各学年で共通の内容の学習を進めていった。1年生は「福祉・仲間づくり」、2年生は「識字学級」、3年生は「平和学習」を行い、互いに思いを伝え合うなかで様々な人権問題を解決しようとする意欲を高めることができた。 ②人間関係を築く能力やコミュニケーション能力、他の人の立場に立って考えられるような想像力を培うために、また学んだことの態度化・行動化につなげるために、生徒の実態を把握するとともに授業形態も工夫した。 ・生活アンケートを行い、生徒一人一人や学級・学年・学校の実態を把握することに役立った。 ・生徒が主体的に参加し、体験することで人権感覚を身につけることができるよう、体験的参加型学習を取り入れた。 1年生：福祉体験(6月) 2年生：識字学級について講演会(7月) 3年生：思春期講演会(2月) ③人権委員会の活性化を図った。 ・校内人権問題意見発表会(6月) ・月1回「人権の日」を設け、中高合同で様々な人権問題について考える時間を持っている。校内放送でも、学んだことや自分たちの思いを全校生徒に向けて発表した。	(所見) 本校は、多くの小学校から入学してきているという実態があり、まず人間関係づくり・仲間づくりを大切にしながら、実践を重ねている。各教科の授業においては、話し合い活動や表現活動を多く取り入れることで、生徒が主体的に学習に取り組めるように授業形態を工夫している。 1年生の「福祉・仲間づくり」への取組は、体験的活動を積極的に取り入れながら、生きて働く力の育成にもつなげた。2年生の識字学級についての講演会では、生徒主体で学んだことや疑問に思ったことを講演者に質問するなど生徒の人権学習への積極性を養うためにも効果的であった。3年生では、沖縄戦や原爆についての事前学習を行った後、修学旅行で広島を訪れた。平和講話等を通して、戦争の悲惨さや平和を求める意識をより高めることができた。また、人権の日の放送では2年生は識字学級との交流会で学んだこと感じたことを自分の言葉でまとめ、全校生徒に発表できた。1年生は環境問題と人権問題のつながりについて考えるとともに理解を深め、それを伝えることができた。			

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題									
		評価指標		評価指数による達成度		総合評価										
<p>(6)心身ともに健康な生徒を育てる特別活動の充実</p>	<p>①学校行事，生徒会活動を通じて生徒の自主性の育成に努める。</p> <p>②ホームルーム活動(学級活動)や部活動のより一層の充実と活性化を図る。</p>	<p>①学校行事に積極的に参加していると思える生徒を90%以上とし，保護者の理解も90%以上得られるようにする。</p> <p>②3年間を見通した体験学習が，豊かな心を育むために役立っていると90%以上が思えるようにする。また，本校の部活動が活発に行われているとの回答を，生徒・保護者とも80%以上にする。</p>	<p>①生徒95%が学校行事に積極的に参加していると回答し，保護者92%が学校行事が適切に行われていると回答している。</p> <p>②生徒91%，保護者92%が，体験学習は豊かな心を育むために役立っていると回答し，生徒の88%，保護者81%が，本校の部活動が活発に行われていると回答している。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>学級や学校の一員として，周囲との望ましい人間関係を形成し，よりよい生活づくりを参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てることができたと思われる。</p> <p>専門委員会では，各委員会ごとに，あいさつ運動や環境美化活動など役割分担を果たし，学校をよくするために活動した。球技大会や部活動では，学級・学年の枠をこえて，交流し親交を深めることができた。</p>	<p>○重点目標に掲げる生徒会活動と学級活動の充実が，活動計画に提示されているが，評価指標には挙げられていない。活動計画の実施状況に，専門委員会の活動状況以外は，ほとんど触れられていないことが物足りない。特別活動の充実こそが，生徒の学校生活に潤いを与え，生きる力の育成に大きく作用するものと考ええる。</p> <p>○部活動は，せっかくの中高一貫なので，同じ部活動であれば，一緒に練習する曜日や，練習試合等をすれば，もっと向上するのではないかと思う。</p> <p>○行事・部活動に熱心に取り組めており，学校での居場所づくりができていると思う。学校への帰属意識も育っていると感じる。</p>	<p>○学校行事や生徒会活動，学級活動の目的を再度見直し，さらに充実した学校生活を生徒が送れるよう不断の改善を図っていききたい。</p> <p>○コロナ禍での学校行事のあり方を検討し，実施する。</p>										
		<p>活動計画</p> <p>①目的や運営のあり方を見直し，生徒の実態に応じて学校行事をより充実したものにする。</p> <p>②各生徒会専門委員会の意義や役割を周知し，生徒の自主的な活動をすすめるため，生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>③学校生活や学級における身近な課題をもとに話し合い，積極的・実践的に学級の合意が図れるよう指導する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①学校行事</p> <table border="0"> <tr><td>入学式</td><td>4月</td></tr> <tr><td>忌部の郷めぐり</td><td>4月(中止)</td></tr> <tr><td>YMCA(1年)</td><td>7月</td></tr> <tr><td>体育祭</td><td>9月</td></tr> <tr><td>阿波文化体験(2年)</td><td>10月</td></tr> <tr><td>修学旅行(3年)</td><td>12月</td></tr> </table> <p>②専門委員会</p> <p>専門委員会を実施し，呼びかけや活動について，中学生集会で全校生徒に周知したり，ボードに掲示したりした。</p> <p>③学校や学級における活動</p> <p>生徒会役員改選(年1回)</p> <p>学級役員改選(学期1回)</p> <p>球技大会(12月)</p> <p>部活動(通年)</p>	入学式	4月	忌部の郷めぐり	4月(中止)	YMCA(1年)	7月	体育祭	9月	阿波文化体験(2年)	10月	修学旅行(3年)	12月	
	入学式	4月														
	忌部の郷めぐり	4月(中止)														
YMCA(1年)	7月															
体育祭	9月															
阿波文化体験(2年)	10月															
修学旅行(3年)	12月															

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題
		評価指標		評価指数による達成度			
<p>(7) 環境教育及び国際理解教育の推進</p>	<p>①新学校版環境ISOを改訂し、環境保全活動に努める。 ②国際性を高めるため積極的に国際交流を図る。</p>	<p>①「ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合が75%以上をめざす。 ②外国の言語や文化に触れ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っていると思える生徒が80%以上となるようにする。</p>	<p>①「清掃や美化活動に積極的に参加するとともに、ゴミの分別・節電・節水等に努めている」と回答する生徒の割合は82%であり、目標を7ポイント上回った。 ②「外国の言語や文化に触れ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と回答する生徒は87%であり、目標を7ポイント上回っている。</p>	<p>(評定) A</p>	<p>(所見) 換気、手洗いを励行した。環境美化委員が中心となり、清掃や美化活動、環境整備に努め、目標数値を達成することができた。 「外国の言語や文化に触れ、視野を広げるのに役立つ国際交流事業を行っている」と回答した生徒が、目標値を上回った背景には、四国大学の留学生とZoomでの交流会や、台湾の生徒と手紙のやり取りなど、積極的な国際交流事業を実施したためだと考えられる。</p>	<p>○「新学校版環境ISO」は、従来の学校における節電、ゴミ分別、リサイクル活動に加え、地域に向いて環境美化、自然観察などの体験活動を行うことを目標としている。学校周辺のゴミ拾い以外にも学びの機会を拡げていくべきである。 ○ 地元大学への留学生とのZoomを活用しての交流などは、よく工夫されたと思う。 ○ 現状維持 ○ 日常生活の中で環境を守るための取り組みが行われ、生徒の意識も高いと感じる。異文化との交流も積極的に取り組んでいると思われる。</p>	<p>○「新学校版環境ISO」でも課題になっていた節電・節水について努める意識の向上に向けて取組を考えていきたい。 ○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、国際交流のあり方を見直していく必要がある。ICT等を活用し、状況に応じて、最適な国際交流事業を積極的に実践していきたい。</p>
		<p>活動計画 ①「新学校版環境ISO」の認定校として、環境美化委員会を中心に清掃活動やリサイクル活動の充実を図る。 ・中庭の花壇の水やりと玄関の掃除を環境美化委員が当番制で行い、校内の美化に努める。 ・学期ごとに環境美化委員会で学校周辺のゴミ拾いに出かける。 ②国際交流 ・国際交流事業やグローバルの授業を通して、留学生や海外の学校との交流の機会を積極的に取り入れる。</p>	<p>活動計画の実施状況 ①環境美化委員の生徒が中心となって、毎朝玄関の掃き掃除に取り組み、春から秋にかけては中庭の花壇の水やりも合わせて行った。また学校周辺のゴミ拾いを行い、地域の環境美化に貢献した。環境安全教育課の職員を中心に、校内全体の環境整備に努めた。「新学校版ISO」の認定校の継続申請も行き、認められた。 ②国際交流 ・海外語学研修は実施できなかったが、四国大学の留学生との交流会を実施し、国際理解を図った。 ・昨年度に引き続き、グローバルの授業において、2・3年生は台湾の生徒との手紙の交換を行い、国際交流に取り組んだ。</p>				

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題																															
		評価指標		評価指標による達成度																																		
			活動計画	活動計画の実施状況																																		
<p>(8)開かれた学校づくりと安全教育の推進</p>	<p>①地域貢献活動等などの活性化や、ホームページ等を活用した広報活動の充実地域の連携を深め、外部評価結果を活かす取組を推進する。</p> <p>②地域と連携した安全・防災教育の積極的な推進に努め地域防災を担う人材を育成する。</p>	<p>①「参観日や見学会を通して、学校の特色が伝わっている」と思う保護者の割合80%以上をめざす。「外部講師を招いての授業の機会が多く設けられている」と思う生徒の割合70%以上をめざす。</p> <p>②「ホームページは、学校の広報活動に役立っている」と思う保護者の割合80%以上をめざす。</p> <p>③防災避難訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合、90%以上をめざす。</p>	<p>①参観日や学校公開の日、県立川島中学校見学会の機会に特色ある授業を実施し、学校の取組を発信する。また、小学校への広報として学校パンフレットや広報誌「絆」の配布を行う。</p> <p>外部講師を招いての出前授業や学校行事、部活動などの学校の取組をホームページで発信し、学校の広報活動を充実させる。また、すべての教員で分担してホームページの更新に取り組めるよう、教員研修を継続して実施する。</p> <p>②防災避難訓練にあたっての事前・事後指導の徹底を図り、中高連携を行いながら総合的な学習の時間で防災学習を行う。</p> <p>防災クラブの活動の活性化を図るための取組を行う。</p>	<p>①保護者の80%が、「参観日等を通して学校の様子が伝わっている」と回答しており、生徒の84%が「外部講師による授業の機会が多く設けられている」と回答している。</p> <p>②保護者の80%が、「ホームページやメール配信は、学校の様子を知る上で役立っている」と回答している。</p> <p>③生徒90%が、「避難訓練や防災学習に積極的に取り組んでいる」と回答している。</p>	<p>①10月17日の参観日は参加率63%であった。9月25日と11月5日実施の入学者募集説明会では小学生の児童・保護者が合わせて41世帯参加した。7月15日には3学年対象の高校説明会を実施した。パンフレットおよびPTAの企画広報委員会による広報誌『絆』を作成し、近隣の小学校に配布した。小学校説明会は小学校7校で実施した。</p> <p>外部講師を招いての主な授業は以下の通りである。</p> <table border="0"> <tr> <td>薬物乱用防止教室(Zoom)</td> <td>1年6月(1名)</td> </tr> <tr> <td>スクールロイヤー出前授業(Zoom)</td> <td>全学年6月(1名)</td> </tr> <tr> <td>福祉体験学習</td> <td>1年6月(5名)</td> </tr> <tr> <td>消費者教育講演会</td> <td>1年7月(1名)</td> </tr> <tr> <td>交通安全講話</td> <td>全学年7月(1名)</td> </tr> <tr> <td>主権者教育出前授業</td> <td>3年7月(1名)</td> </tr> <tr> <td>識字学級交流会</td> <td>2年7月(10名)</td> </tr> <tr> <td>進路講演会(Zoom)</td> <td>3年9月(1名)</td> </tr> <tr> <td>先輩から学ぶ</td> <td>2年10月(6名)</td> </tr> <tr> <td>防災学習(Zoom)</td> <td>1年9月(1名)</td> </tr> <tr> <td>中学生職業ガイダンス</td> <td>2年10月(1名)</td> </tr> <tr> <td>阿波文化出前授業</td> <td>2年10月(3名)</td> </tr> <tr> <td>職場体験出前授業(Zoom)</td> <td>2年11月(4名)</td> </tr> <tr> <td>高校生ファシリテーターによる防災学習</td> <td>1年11月12月(10名)</td> </tr> <tr> <td>非行防止教室(Zoom)</td> <td>全学年12月(1名)</td> </tr> </table> <p>②6月と12月の避難訓練では、新型コロナウイルス感染症対策を行い、訓練や講習を実施した。高校生ファシリテーターによる防災学習は、1年生が防災について考え、避難所運営などを考える機会になった。防災クラブの活動では、毎年恒例になっている鴨島支援学校での飛散防止フィルム貼付作業を実施した。</p>	薬物乱用防止教室(Zoom)	1年6月(1名)	スクールロイヤー出前授業(Zoom)	全学年6月(1名)	福祉体験学習	1年6月(5名)	消費者教育講演会	1年7月(1名)	交通安全講話	全学年7月(1名)	主権者教育出前授業	3年7月(1名)	識字学級交流会	2年7月(10名)	進路講演会(Zoom)	3年9月(1名)	先輩から学ぶ	2年10月(6名)	防災学習(Zoom)	1年9月(1名)	中学生職業ガイダンス	2年10月(1名)	阿波文化出前授業	2年10月(3名)	職場体験出前授業(Zoom)	2年11月(4名)	高校生ファシリテーターによる防災学習	1年11月12月(10名)	非行防止教室(Zoom)	全学年12月(1名)	<p>(評定)</p> <p>B</p> <hr/> <p>(所見)</p> <p>評価指標①②で、目標値に近い値となっている。</p> <p>今年度は参観日が1回のみであったが、授業内容を通して本校の特色ある教育活動を広報する機会になっている。外部講師を招いた授業については、Zoomを活用することで昨年度以上に機会を確保することができたため、生徒の肯定的な回答が多かった。</p> <p>ホームページについては、マニュアルの作成と教員への研修を進め、多くの教員で分担して記事の更新を行うことができた。今年度の更新数は1月末現在241記事で、昨年度から2.2倍に増加し、より多くの人々に利用してもらえるようになっている。</p> <p>防災学習について、総合的な学習の時間や避難訓練、防災クラブの活動を通して、生徒の防災意識と実践力の向上が見られた。</p>	<p>○多くの教員が関わることで、ホームページの更新回数が前年に比べ倍増していることを高く評価したい。重点目標に挙げた地域貢献活動等の活性化が評価されていない。</p> <p>○限られた授業時数の中で、効果的な防災学習を実施するためには、カリキュラムの創意工夫や防災避難訓練の事前と事後の学習も充実して欲しい。</p> <p>○コロナ対策での休校や濃厚接触者等の情報があまりにも雑すぎるように思った。保護者からの苦情がたくさんあるように思う。(例えば、「陽性者〇名、うちPCR検査必要性のある生徒はすべて終え、全員陰性と確認したため、通常登校にします。」のような連絡があれば、保護者の方も仕事の都合がつけられるかと思った。)</p> <p>○多くの外部講師の招聘や積極的なホームページの更新など、開かれた学校づくりの努力が感じられる。防災避難訓練にも積極的に取り組んでいる。</p>	<p>○今後も参観日や公開授業の授業内容を工夫し、本校の魅力や特色ある取組について発信できる機会にしていく必要がある。小学校への広報活動を強化していくことも必要である。</p> <p>○ホームページでは記事の更新数を確保するだけでなく、見やすさや発信する内容についても、本校の特色ある取組や魅力が伝わるよう工夫して発信する。</p> <p>○今後もZoomなどICTを効果的に活用して外部講師を招いた授業の機会を確保するとともに、ホームページでの発信を行う。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響下においても、地域と連携した安全・防災教育のあり方を考え、実践していく必要がある。</p>
薬物乱用防止教室(Zoom)	1年6月(1名)																																					
スクールロイヤー出前授業(Zoom)	全学年6月(1名)																																					
福祉体験学習	1年6月(5名)																																					
消費者教育講演会	1年7月(1名)																																					
交通安全講話	全学年7月(1名)																																					
主権者教育出前授業	3年7月(1名)																																					
識字学級交流会	2年7月(10名)																																					
進路講演会(Zoom)	3年9月(1名)																																					
先輩から学ぶ	2年10月(6名)																																					
防災学習(Zoom)	1年9月(1名)																																					
中学生職業ガイダンス	2年10月(1名)																																					
阿波文化出前授業	2年10月(3名)																																					
職場体験出前授業(Zoom)	2年11月(4名)																																					
高校生ファシリテーターによる防災学習	1年11月12月(10名)																																					
非行防止教室(Zoom)	全学年12月(1名)																																					